

1 今後の市民理解促進及び市民対話事業

(1) 基本的な考え方

① 招致に関する議論を深める



メディア連携や公開討論会等を通じて、期待や懸念の声を聞き、議論を深める

② 幅広い市民対話の実施



市民に身近な場所で丁寧に説明する機会を設けていく

(2) 重点的に発信していく内容

① 不安や懸念の解消（大会運営見直し案）

意思決定プロセスの見える化

- 一部の理事を公募により選考
- 積極的な情報開示とタイムリーな情報発信
- 第三者が監視・監査できる体制を構築

代理店への過度な依存を防止

- 民間企業出向者の人材配置ルールの設定
- スポンサー選定プロセスの透明化
- 業務を適切に切り分け、原則競争入札の実施

予算執行や調達の適切な管理

- 大会運営経費には原則、税金は投入しない
- 収入に見合った効率的な大会運営
- 予算執行状況の随時公表

➢ 発信内容をよりわかりやすく解説するためリーフレットや動画の視覚に訴えるツールを制作

② 大会の開催意義

これまでの発信内容

- 子どもたちに夢や希望与える
- まち全体のバリアフリーの加速化
- 国際的な知名度の向上等による経済の活性化
- 大会開催に伴う経済波及効果

拡 充

市民が実感しやすい効果を発信

- 大会への参画を通じた子どもたちの国際感覚やまちへの愛着・誇りの醸成
- 東京2020大会の具体的な効果（交通施設のバリアフリー化、心のバリアフリーの浸透、ボランティア文化の定着など）
- 民間投資や企業誘致等にかかる具体的事例
- 市の税収効果（大会後10年間で約250億円）

(3) 公開討論会（シンポジウム）の実施

① 実施手法

- 賛成・反対を含め様々な立場から招致について意見交換し、議論を深めるための討論会を関係団体とも連携しながら実施することで、市民理解を深める機会を創出
- メディアとの連携により議論の内容を広く発信

② 予定している公開討論会

- 8～9月にかけて複数回実施できるよう調整中
- 会場で観覧のほかオンラインを活用したライブ配信及びアーカイブ配信を予定

(4) 市民対話の取組

① 市民に身近な場所での取組

➢ 市民ができるだけ気軽に参加できるように、オープンハウス型と個別説明会型を組み合わせる実施

	オープンハウス説明会型	個別説明会型
概要	市民が多く行き交う場所でパネル等を展示、気軽に職員と対話できる環境を整備	札幌市から簡単に大会概要案等について説明後、質疑応答により議論を深める
イメージ		

- 会場内に意見募集コーナーを設置するなど、市民から寄せられた意見の見える化を工夫
- 会場に足を運ばない方も参加できるように、オンライン説明会も実施
- そのほか、従来のオリパラ出前講座も積極的に実施

② オープンハウス説明会型等の実施日・場所（7/7現在）

（調整中のため変更可能性あり）

中央区	8/9～11@札幌駅前通地下歩行空間 8/27@サッポロファクトリー	豊平区	8/28@豊平区民センター
北区	9/4@北区民センター	清田区	8/19@イオンモール札幌平岡
東区	9/2@イオンモール札幌苗穂	南区	9/1@南区民センター
白石区	7/29@ラソラ札幌	西区	9/9@イオンモール札幌発寒
厚別区	8/12@新さっぽろサンピアザ	手稲区	7/31@あいくる・手稲区民センター

③ オンライン説明会の実施日・方法

10区でオープンハウス説明会型等終了後、Zoomウェビナー形式で実施
平日/昼間・夜間、土・日・祝/昼間・夜間の計4回程度実施（9月中旬頃予定）

④ オリパラ出前講座の実施・方法

おおむね10人以上が参加予定の町内会やサークル等の団体・グループの要望に応じて地域に出向き随時実施。オンラインでの開催など柔軟に対応

(5) 事前周知の工夫

- 広報誌やホームページ・SNSなどの活用
広報さっぽろ8月号への掲載のほか札幌市公式ホームページ・SNS等を活用
- チラシやポスターの配布・掲出
- プレスリリースなどメディアを通じた周知